

令和5年度 国立吉備青少年自然の家

事業のまとめ



独立行政法人国立青少年教育振興機構



国立吉備青少年自然の家



はじめに

令和5年2月10日、政府の新型コロナウイルス感染症対策本部は、マスクについて、個人の主体的な選択を尊重し着用は個人の判断に委ねることを基本的対処方針において決定した。さらに4月27日、この基本的対処方針そのものも5月8日をもって廃止とすることを決定した。

独立行政法人国立青少年教育振興機構においても、基本的な感染対策は継続しつつも、「新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」を廃止して、令和5年度は従来の事業展開と参加者・利用者の回復を目指して各種業務に取り組むこととなった。

他方、各種食材等の価格高騰の影響を受け、レストラン「きびの森」で提供する食事料金については、昨年度に続き2年連続で値上げを余儀なくされた。中学生以上が朝、昼、夕と3食利用した場合、1,960円から2,150円と190円の値上げとなった。そして、いよいよ来年度からは宿泊利用者に負担していただく施設利用料についても抜本的な見直しが図られることになる。

さて、主催する教育事業は、高校生の「地域探究プログラム」、親子を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業、グローバル人材の育成を目指すイングリッシュキャンプ、ボランティア養成事業など、多岐にわたる事業を展開したが、その中でも「桃太郎チャレンジ2023」は、真夏の8月に6泊7日、テント泊をしながら桃太郎伝説ゆかりの地をめぐるものだった。熱中症指数の上昇により予定どおりの行程とはならなかった箇所もあるが、最後は鬼ノ城山登頂を果たして充実したものとなった。個々の事業の詳細については、頁を繰って御覧いただきたい。

令和6年3月

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立吉備青少年自然の家
所長 妹尾 剛

令和5年度国立吉備青少年自然の家事業のまとめ

はじめに	P 1		
目次	P 2		
1. 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成に関する事業			
青少年教育に関するモデル的事業	①全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 吉備	県内の高校生	P 3
	②桃太郎チャレンジ2023	小学校3・4年生	P 7
社会の要請に応える体験活動等事業	③早寝早起き朝ごはんキャラバン隊	幼児・小学生	P 11
	④リズムミック*トラベラー	小学生とその家族	P 15
	⑤森のたんけんたい2023	4歳～小学低学年の子供とその家族	P 17
	⑥自己肯定感アップキャンプ	小学校3・4年生	P 21
	⑦チアフルデー ～きびの森！感謝でえ～	家族	P 23
	⑧自然体験会	小学生とその家族	P 29
	⑨新春！親子で書道体験 ～日本の正月文化も楽しもう！～	小学生とその家族	P 33
	⑩キビキビ通学合宿	小学校3～6年生	P 37
課題を抱える青少年を支援する体験活動事業	⑪わくわくキャンプ@吉備	ひとり親家庭	P 41
	⑫自然体験フォローキャンプ	児童養護施設に在籍する児童・生徒	P 45
グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業	⑬吉備でチャレンジ！イングリッシュキャンプ	小学校6年生	P 49
2. 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業			
青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業	⑭自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業	一般・大学生	P 53
	⑮チームビルディング研修	一般・大学生	P 57
ボランティア養成・研修事業	⑯吉備ボランティア養成研修	高校生・大学生・社会人	P 59
	⑰ボランティア自主企画	小学校3・4年生	P 63

令和5年度 全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 吉備」

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付け、地域での実践活動における素地を培う。

2. 事業の概要

(1) 期日

第1回 令和5年6月10日(土)～6月11日(日) 1泊2日

第2回 令和5年6月17日(土) 日帰り

※第2回に都合のため欠席した参加者2名が令和5年8月16日(水) 25日(金)に発表を行った。

(2) 参加者

① 募集対象・人数

全日程に参加できる県内の高校生(募集定員10名程度)

② 参加者

第1回 6人

第2回 4人(後日2人個別参加)

(3) 連携機関

吉備中央町地域おこし協力隊

加茂川優害獣利用促進協議会

ブルーベリーはるな園

農家民宿「みっちゃん」

農家民宿「やまと」

(4) 企画・運営のポイント

- ① 「地域おこし」について様々な角度から取り組む方々を講師として招くことで、様々なアプローチや視点を学ぶことができるようにした。
- ② 地域活性化のために取り組んでいることや様々な工夫を参加者自らが体験することができるようなフィールドワークを設定した。体験を通じて高校生が考えたアイデアを連携機関の方に伝え、意見をいただくことで、自分たちが気付かない面にも気づくことができるようにするなど、活動内容を工夫した。
- ③ 主体的な学びにつながるようにグループ活動や振り返りの時間を大切にした。
- ④ 宿泊を伴う際の発表は、ポスターセッションに限定したが、日帰りの発表は参加者の実態に合わせてパソコンやタブレット端末も使える環境を整えた。

3. 活動の内容等

(1) 日程

①令和5年6月10日（土）～11日（日）1泊2日

1日目		2日目	
9:15	受付	6:30	起床・洗面
9:30	開講式	7:30	朝食
9:45	アイスブレイク	8:30	フィールドワーク②
10:15	ガイダンス	10:30	講義・演習③「地域課題の探究」
11:00	講義「地域おこしの様々な活動」	12:30	昼食（レストラン）
12:30	昼食（レストラン弁当）	13:30	発表①
13:00	フィールドワーク①	14:30	諸連絡
16:00	講義・演習①「地域理解」	14:45	解散
18:00	夕食		
19:00	講義・演習②「課題解決の基礎」		
21:00	入浴		
22:00	就寝		

②令和5年6月17日（土）日帰り 会場：ピュアリティまきび（岡山市）

3日目	
9:30	受付
9:45	諸連絡
10:00	講義・演習④「行動計画の基礎」
13:00	昼食（参加者持参）
14:00	発表②
15:00	講義・演習⑤ 「実践活動のためのガイダンス」
16:00	閉講式
16:15	解散

(2) 活動の状況

①令和5年6月10日（土）～6月11日（日）



【アイスブレイク】



【講義「地域おこしの様々な活動」】



【講義「地域おこしの様々な活動」】



【フィールドワーク①】



【フィールドワーク①】



【講義・演習①「地域理解」】



【講義・演習②「課題解決の基礎」】



【フィールドワーク②】



【フィールドワーク②】

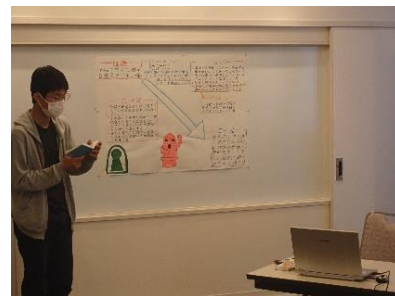


【講義・演習③「地域課題の探究」】

②令和5年6月17日（土）



【講義・演習④「行動計画の基礎」】



【発表】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 農業体験をして、農家の人の努力と苦勞が分かった。
- ② 地域おこし協力隊の人は、自分のしていた職を生かして地域おこしをしていてすごいと思った。工夫次第で誰でもできると言っていたので、私もやってみたいと思った。
- ③ インターネットで調べるよりも現場に行って自分が思ったことや感じたことを大切にしたいと思った。
- ④ 自分の気付かなかったことをグループ内で共有することで、より理解を深められたので、KJ法は良いと思った。
- ⑤ 6W3Hを考えると、より具体的な行動ができることを知ったので、意識して行動計画を立ててみたいと思った。
- ⑥ 自分は意外とリーダーシップがあると思い、新しい自分に気付けて良かった。
- ⑦ 普段、地域のことを考える機会がないので、考えてみると面白いと思った。もっと授業でやってみたいと思った。

(3) 成果

- ① 講師の方と連絡を密にとることで、興味深い話をさせていただいたり魅力的な実物を用意していただいたりすることができ、受講生にとって有意義な時間になった。
- ② 企画指導専門職で講義の流れを話し合うことで、つながりをもたせることができた。
- ③ 参加者の学習意欲が高く、熱心に活動に取り組むことができていた。農業高校の生徒と普通科高校の生徒が同じ活動をすることで、フィールドワークやグループワークで教え合ったり学び合ったりする姿が見られた。
- ④ 最終日の発表では、ポスター発表だけでなく、タブレット端末やパソコンを選択できるようにした。得意分野を生かして、より伝えたいことを明確にしたり聞き手を引き付けたりして発表の質が高まった。

(4) 今後の課題

- ① 個別参加型のカリキュラムAで開催したが、当初は参加者が集まらず、追加でチラシの発送や直接広報などを行った。今回、ある高校の生徒4名が学校からの派遣という形で参加した。担当の先生から「今後も継続的な参加を視野に入れていきたい」という言葉をいただいた。そのような場合は、カリキュラムBの学校連携型になり、プログラム内容が大きく変わると思われる。
- ② 活動プログラムの時間設定にゆとりが無く、参加者に疲労が溜まっていた。長時間の移動などがあり、体力的にもつらかったことがアンケートからもうかがえた。今後は、参加者の立場でゆとりのあるスケジュールにする必要がある。

担当：企画指導専門職 八木 雄治

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

小学校中学年という人間関係の大きな発達段階にある子供たちが、自然の中で共に宿泊体験や自然体験活動を通して、コミュニケーション力を高め、協力してよりよい集団生活を築こうとする態度や、自ら困難なことにもチャレンジし、自分自身を認めようとする心情を育む。

また、「おかやま桃太郎ものがたり～吉備津彦と温羅～」の舞台となっている史跡や施設をめぐるロングウォークなど郷土岡山に関連する活動を通して、郷土岡山を知り、大切にすることを育む。

2. 事業の概要

（1）期日

令和5年8月17日（木）～8月23日（水）6泊7日

（2）参加者

① 募集対象・人数

全日程に参加できる小学校3・4年生 24人

② 参加人数

24人

（3）講師等

鷹取 敏明 氏（吉備の中山を守る会 顧問）

守分 清身 氏（吉備津彦神社 宮司）

笹倉 真衣 氏（吉備津神社）

（4）企画・運営のポイント

- ① 岡山県の育みたい資質能力の一つ「郷土岡山を大切にすることを心」と国立吉備青少年自然の家のキャッチフレーズである「桃太郎のさと 吉備」を絡めた事業運営を心がけた。
- ② WBGTの数値が31.0を超えた場合は、ロングウォークを中止し、バス移動もしくは室内での活動に変更するなど熱中症対策を行った。また、昼間にWBGTの数値が上がることを想定し、早朝から歩くプログラムとした。
- ③ 弓矢づくりは、今後当所の活動プログラムにしていくことを想定し、去年は職員やボランティアで事前に行っていた部分も参加者が体験できるよう、活動時間を長めに設定した。
- ④ 6日目夜の活動を自分たちで考えて決めたり、保護者に向けての発表の原稿や役割分担を任せたりと、参加者が話し合っ決めて決める場面を多く設定した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目 8/17(木)								受付 開会式	オリエン テーション	昼食 (レストラン)	仲間づくりゲーム		桃太郎体験① (弓矢づくり)	夕飯のついで 夕食 (レストラン)	ふりかえり ルール作り	入浴 (ロッジ)		就寝 (ロッジ)	
2日目 8/18(金)		就寝	起床 清掃	朝のついで 朝食 (レストラン)				桃太郎体験① (弓矢づくり)	昼食 (レストラン)	テント設営			火から起こす きびだんご作り + 野外調理	ふりかえり	シャワー		就寝 (テント)		
3日目 8/19(土)		就寝	起床 清掃 テント撤収	朝食 (レストラン 弁当)				桃太郎体験② (アドベンチャーオリエンテーリング) 昼食(レストラン弁当)	バス移 動	吉備 津彦	バス移 動	テント 設営	ふりかえり	野外調理	入浴 (岡山みやび温泉 大家族の湯)	就寝 準備	就寝 (テント)		
4日目 8/20(日)		就寝	起床 清掃 テント 撤収	朝食 (レストラン 弁当)				ロングウォーク① (アドベンチャーオリエンテーリング) 吉備津彦神社～矢喰神社～岡山市立加茂小学校 約10km	移動	昼食 (レストラン 弁当) (高松公 民館)	ふりかえり	作戦タイ ム(6日目 夜の活動 について)	入浴 (瀬戸大橋温泉 やま幸)	テント 設営	夕食 (レストラン 弁当)	就寝 準備	就寝 (テント)		
5日目 8/21(月)		就寝	起床 清掃 テント 撤収	朝食 (レストラン 弁当)				ロングウォーク② 岡山市立加茂小学校～矢喰神社～砂川公園 約9km	移動	昼食 (レストラン 弁当) (高松公 民館)	入浴 (吉備路温泉)	テント 設営	ふりかえり	野外調理	就寝 準備	就寝 (テント)			
6日目 8/22(火)		就寝	起床 清掃 テント 撤収	朝食 (レストラン 弁当)				ロングウォーク③ 砂川公園～鬼ノ城～奥坂休憩所 昼食(レストラン弁当)	約9km	休 憩	バス 移動	荷物移動 就寝準備	ふりかえり 発表準備	夕飯のついで 夕食 (レストラン)	入浴	みんなで 決めた活動	就寝 (宿泊棟)		
7日目 8/23(水)		就寝	起床 清掃	朝のついで 朝食 (レストラン)	移動	ふりかえり 閉会式の発表準備		閉会 式											

(2) 活動の状況



【仲間づくり】



【弓矢づくり①】



【弓矢づくり②】



【火起こし】



【きびだんごづくり】



【アドベンチャーオリエンテーリング①】



【吉備津彦神社講話】



【テント設営】



【野外調理】



【ふりかえり】



【吉備津神社講話】



【作戦タイム】



【野外調理】



【ロングウォーク】



【鬼ノ城】



【班ごとの発表】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足 95%、やや満足 5%

(2) 参加者の声

- ① 最後まで自分でやり抜くことの大切さがわかった。
- ② 岡山のこと初めて知ることが多くて、うれしかった。行く前は不安があったけど、みんなと仲良くできたし、規則正しい生活もできて良かった。
- ③ ロングウォークがきつかったけど、最後まであきらめずに歩けたことがうれしかった。鬼ノ城に行って、うらや吉備津彦のことをいっぱい知れて勉強になった。

(3) 成果

- ① 毎日個人や班ごとのふりかえりの時間を設けたことで、それぞれの活動に目標をもって取り組む様子が見られた。はじめは職員やボランティアが進めていたが、日が経つにつれ、子供たちだけで意見を聞いて話し合いができていた。
- ② 火起こしではなかなか火がつかず苦戦したが、着火ライターなどを使うという選択をせず、最後まで諦めずに自分たちで火をつける様子が見られた。
- ③ 保護者の前の発表の際には、発表の原稿や役割分担などを子供たちに任せたが、班ごとに協力し、1週間で頑張ったことなどをしっかりと発表でき、保護者にも成果として見せることができた。

(4) 今後の課題

熱中症対策で昼間に屋外での活動をするのが難しいため、何を目的にするのかははっきりさせた上で活動プログラムを再検討する必要がある。

担当：企画指導専門職付 角田 怜那

令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

「早寝早起き朝ごはんキャラバン隊」

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

子供たちが健やかに成長していくためには、調和のとれた食事、十分な睡眠が大切であるという考えから始められた「早寝早起き朝ごはん」運動について、県内の小学校等と連携し、継続的な啓発・普及活動を展開することで、基本的な生活習慣の確立を図る。

2. 事業の概要

（1）期日

① 1回目

8月25日	総社市立清音小学校
8月28日	倉敷市立第五福田小学校
8月30日	井原市立県主小学校 井原市立県主幼稚園
8月31日	吉備中央町立豊野保育園
9月1日	吉備中央町立吉備高原小学校
9月4日	赤磐市立山陽東小学校
9月6日	吉備中央町立上竹荘保育園
9月7日	瀬戸内市立国府小学校
9月25日	吉備中央町立吉備高原こども園

② 2回目

12月11日	真庭市立北房小学校
12月18日	総社市立清音小学校
12月22日	吉備中央町立円城小学校
1月9日	吉備中央町立御北小学校 吉備中央町立御北幼稚園
1月10日	吉備中央町立上竹荘小学校
1月16日	岡山市立芥子山小学校
1月18日	倉敷市立第五福田小学校

（2）参加者

延べ3,788人

（3）企画・運営のポイント

- ① 終業式や始業式の前後に実施することで、子供たちの気が緩みやすい長期休み中や長期休み明けに効果的に意識付けをした。
- ② 昨年度までは施設利用などで繋がりのある学校園を中心に広報を行っていたが、今年度はWebサイトやSNSを活用し、広く募集した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

① あいさつ運動

7:20	打合せ 動線確認 更衣
7:45	校門あいさつ運動開始
8:10	校門あいさつ運動終了

② 講話、〇×クイズ、早寝早起き朝ごはん体操

13:30	打合せ 動線確認 更衣
14:00	全校集会にて講話、〇×クイズ、早寝早起き朝ごはん体操開始
14:30	全校集会にて講話、〇×クイズ、早寝早起き朝ごはん体操終了

③ 絵本の読み聞かせ、講話

10:10	打合せ 動線確認 更衣
10:30	教室にて絵本の読み聞かせ、講話開始
11:00	教室にて絵本の読み聞かせ、講話終了

④ あいさつ運動、絵本の読み聞かせ

9:15	打合せ 動線確認 更衣
9:30	教室にてあいさつ運動、絵本の読み聞かせ開始
10:00	教室にてあいさつ運動、絵本の読み聞かせ終了

(2) 活動の状況



【あいさつ運動(小学校)】



【ふれあい活動(保育園)】



【絵本の読み聞かせ】



【あいさつ運動(小学校)】



【講話】



【〇×クイズ(小学校)】



【あいさつ運動(小学校)】



【絵本の読み聞かせ】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 絵本の読み聞かせや幼児への言葉かけが優しくて分かりやすかった。よふかしおにもたくさん関わってくださり、幼児が喜んで参加できた。
- ② 朝のあいさつ運動だけでなく、1年生にクイズや体操をしていただき、子どもたちはとても喜んでいました。
- ③ 早寝早起き朝ごはんの大切さについては、日ごろから園内でも子どもたちに伝えている。本事業のように外部の方からお話を聞いたり、絵本を読んでもらったり、キャラクターに登場していただいたりすることで、新鮮な気持ちでお話を聞くことができている。
- ④ 子どもたちは大きなキャラクターとあいさつをしながら、早寝早起き朝ごはんなどを意識できるよい機会となっている。
- ⑤ 始業式の日に来ていただき、とてもタイミングがよかった。

(3) 成果

- ① 小学校では、朝のあいさつ運動や講話を通して基本的な生活習慣の大切さを伝えることができた。特に、着ぐるみを着用することで、子供たちに親しみやすさを与えることができ、効果的に早寝早起き朝ごはんに対する意識付けを行うことができた。
- ② これまでのキャラバン隊の活動では単発のイベント的な実施となってしまうが、今年度は養護教諭や栄養教諭、保健委員の児童とも連携して全校集会でキャラバン隊の活動を行うなど、今後の学校生活での取組につなげることができた。
- ③ Web サイトで申込みを受け付けることで、希望内容が把握しやすく、スムーズな企画運営につなげることができた。

(4) 今後の課題

早寝早起き朝ごはんの大切さについて広く周知できるよう、引き続き Web サイトで申込み受付を行うとともに、これまで利用のなかった学校園にも知ってもらえるような手立てを検討する。

担当：企画指導専門職付 角田 怜那

令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

リズムック*トラベラーplus

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

自然の中で音楽を存分に楽しみ、心も体もリフレッシュする。自然物を使った楽器や電子打楽器などを実際に演奏し、様々な音楽体験ができる。

2. 事業の概要

(1) 共催 公益財団法人かけはし芸術文化振興財団

(2) 期日

令和5年7月8日（土） 7月9日（日） 日帰り2日

(3) 参加者

① 募集対象・人数

チラシを学校で配布された小学生とその家族・各日15家族程度

② 参加人数 8日：13家族35人

9日：12家族44人

(4) 講師等

MASAKing 氏（ミュージシャン）

(5) 企画・運営のポイント

① 室内ばかりでの活動になるので、事前に自然物を集めておいて、楽器として活用するなど、自然に触れる機会を作ることとした。

② ハイブリッド打楽器アンサンブルとし、音楽室にある打楽器や自然の楽器、電子楽器に触れる時間を設けた。

3. 活動の内容等

(1) 日程

7月8日（土）、9日（日）	
10:30	受付
11:00	開会式
11:15	アイスブレイク・電子楽器体験
12:00	昼食・休憩
13:30	ハイブリッド打楽器アンサンブル
15:00	ミニコンサート
15:45	閉会式

(2) 活動の状況



【電子楽器音楽アプリ体験】



【自然の楽器体験】



【打楽器体験】



【電子ドラム体験】

4. 成果・課題

(1) 満足度 満足：96% やや満足：4%

(2) 参加者の声

- ① 様々な楽器に触れることができとても楽しかったです。またいろんなイベントに参加したいと思います。
- ② はじめて参加したけど、子どもたち、大人みんなで楽しむことができ、参加してよかったです。
- ③ 子どもがキラキラと目をかがやかせて、しかも1人で前に出てドラムをたたけて、成長を感じました。

(3) 成果

- ① 吉備の枯れ木や竹を楽器として使用したことで、自然物を使った楽器にも親んでもらえた。
- ② 打楽器を多く準備したことで、一人一つ楽器を演奏し、アンサンブルを行うことができた。

(4) 今後の課題

- ① 申込者数が伸び悩んだので、チラシを配布した学校だけに限るのではなく、誰でも申し込めるようにしても良いと考える。
- ② 電子楽器の人気の高いので、ハンドソニックなどの電子楽器をもう少し多く用意し、体験する機会を多くとる。

担当：企画指導専門職付 竹井 楓夏

令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

森のたんけんたい2023

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

吉備の秋を感じながら自然に親しむ活動を通して、自然体験や自然の大切さを理解するとともに、家族のきずなや家族間の交流を深める。

2. 事業の概要

(1) 共催 株式会社おもちゃ王国（以下、「おもちゃ王国」と表記）

(2) 期日

令和5年9月30日（土）～10月1日（日）1泊2日

(3) 参加者

① 募集対象・人数 幼児とその家族・10家族30人程度

② 参加人数 10家族35人 【申込人数：52家族170人】

(4) 講師等

石原 恵以子 氏（絵本専門士）

(5) 企画・運営のポイント

- ① 絵本専門士の方と事前に打ち合わせを行い、自然にまつわる絵本を読み聞かせに使うことで、その後の活動とつながりを持たせることができた。
- ② 民間企業との共催事業として、おもちゃ王国と協定を結び、互いの役割分担を明確にするるとともに、来所や電話での打合せを繰り返し行いながら準備に取り組んだ。
- ③ 2日目朝の活動時間に余裕を持たせて、空き時間に周辺の散策、所内のアスレチックで遊ぶなど、家族ごとに自然を楽しむ時間を作った。
- ④ コース案内や景品などにおもちゃ王国のグッズを活用し、子どもたちが喜ぶ雰囲気作りに努めた。

3. 活動の内容等

(1) 日程

9月30日（土）		10月1日（日）	
13:00	受付	6:45	起床・洗面・清掃
13:30	開会式	7:45	朝のつどい
14:00	「絵本の読み聞かせ」	8:00	朝食
15:00	「トレジャーウォーク・ ブラインドウォーク・ 裸足でチャレンジ」	9:00	清掃・点検
		10:00	「焼きマシュマロ・カートンドック」
		13:00	閉会式
17:15	夕べのつどい		
17:30	夕食		
18:30	「キャンプファイヤー」		
20:00	入浴		
21:00	就寝準備		
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【絵本の読み聞かせ】



【ブラインドウォーク】



【裸足でチャレンジ】



【キャンプファイヤー】



【焼きマシュマロ】



【カートンドッグ】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：80% やや満足：20%

(2) 参加者の声

- ① 家族だけではなかなか経験できないことを経験できてよかった。
- ② 家族同士の交流も自然と取れ、和やかな雰囲気づくりもありがたかった。
- ③ 絵本の読み聞かせでは大きな絵本が楽しかった。秋の本をたくさん知れた。
- ④ トレジャーウォークは結構大変で達成感があった。
- ⑤ 子どもも飽きない内容でよかった。

(3) 成果

- ① 昨年の反省を踏まえ、今年は1日目から2家族ずつの班を作り、家族同士の交流ができるようにしたことで、保護者同士、子ども同士など家族の枠を越えた関わりが見られた。
- ② 絵本の読み聞かせやトレジャーウォークは、自然に親しむ内容となっており、2日目の自由時間などにも秋のものを見つけるなど、吉備の自然を楽しむ姿が見られた。

(4) 今後の課題

- ① 2～3歳児が昨年より多く参加したこともあり、トレジャーウォークでは時間内に活動を終わることができなかった。次にタベのつどいがあり、時間を守らないといけないため、抽選時に年齢を考慮しておく必要がある。
- ② 荒天が予想されたため、プレイホールでキャンプファイヤーを行ったが、プレイホールだと走り回る子どもが多かった。活動にうまく巻き込む工夫が必要だと感じた。

担当：企画指導専門職付 角田 怜那

**令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
自己肯定感アップキャンプ**

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

自然の中でのグループ活動を通して異学年の仲間と主体的に関わり、4年生は3年時の経験を活かしながらリーダーシップを発揮したり、3年生は自然の中での体験活動を通して自信をつけたりすることで、それぞれの自己肯定感を高める。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年10月19日（木）～10月20日（金） 1泊2日

(2) 参加者

吉備中央町立津賀小学校・円城小学校・御北小学校（3校連合）
小学校3年生19人 4年生14人 計33人

(3) 企画・運営のポイント

- ① 小学校5年生の宿泊研修「海の学校」や小学校6年生の修学旅行があるので、2学年合同での宿泊活動として3年生と4年生に設定した。
- ② オンライン授業などで3校での交流をしているが、お互いを認め合う場の素地づくりとして、KAP（吉備プロジェクトアドベンチャー）を3時間で計画した。
- ③ 今後、研修支援のパッケージ化のために、現在ある活動の中で遊びリンピックやスコアオリエンテーリングなど自己肯定感が上がりそうな活動を取り入れた。
- ④ 自己肯定感の変化を捉えるために、事前・事後でのアンケート調査を行った。また、活動中も自分や友達の良さを振り返る機会を多く設け、キラリシートにまとめて、視覚的に分かりやすくした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

10月19日（木）		10月20日（金）	
8:45	各小学校を出発	6:45	起床
9:30	入所式	7:15	掃除
10:00	仲間づくりゲーム（KAP）	7:45	朝のつどい
11:30	荷物移動	8:00	朝食（レストラン）
12:00	昼食（レストラン）	9:00	退所点検
13:00	仲間づくりゲーム（KAP）	9:30	遊びリンピック
14:15	スコアオリエンテーリング（独自コース） （荒天時：館内オリエンテーリング）	11:00	野外炊事（ポリ袋炊飯）
17:15	夕べのつどい	13:00	振り返り
17:30	夕食（レストラン）	14:00	退所式
18:30	入浴（いずみのみ）	14:30	退所
19:30	キャンドルのつどい		
20:30	1日の反省		
21:30	就寝		

(2) 活動の状況



【KAP】



【スコアオリエンテーリング(ミッション)】



【キャンドルのつどい】



【遊びリンピック(カブラ積み)】



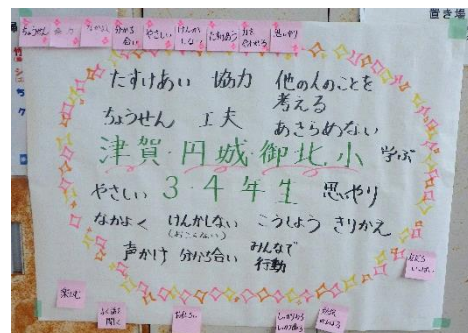
【野外炊事(新聞紙食器作り)】



【野外炊事(ポリ袋炊飯カレー)】



【振り返り】



【振り返り(キラリシート)】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

①児童

ア)前は自分のことを嫌いだったけど、今回のような経験をして自分を好きになった。
(3年生)

イ)困っている友達の手助けができてうれしかった。(3年生)

ウ)友達とたくさん話し合いをしたり友達のことを手伝ったりできた。(4年生)

エ)昨年やったことは3年生に教えてあげることができた。(4年生)

②教員

ア)「仲間づくり」や「協力」といった要素が含まれているプログラムがとても効果的であった。

イ)昨年と同じ活動もあったが、昨年の経験が活かされた4年生もいたのではないかと思う。

ウ)班の中で友達の良かったところを話し合う活動で自分の良さに気付けた子もいるのではと思われるので、アンケートはその後も良かったと感じた。

エ)KAPに自然の中でできるプログラムがあればなお良いと思った。

(3) 成果



※経年…4年生の3年時(昨年度)の事前と4年時(今年度)の事後を比較したもの。

- ① 「今の方が好きだ」「自分には良いところがある」「人の役に立っている」の項目で児童に事前と事後でアンケートをとったところ、どの項目も事後に伸びが見られた。特に「人の役に立っている」項目の伸びが大きかった。また、4年生については、昨年度の事前と比べても伸びが見られ、自己肯定感の高まりが見られた
- ② 昨年度は日帰りとなってしまったため、初の宿泊を伴うものとなったが、話し合い活動を多く取り入れたり、自分や友達の良いところを認め合う場を設定したりKAPを充実したことで、安心して活動できるきっかけとなった。
- ③ 各活動ごとに振り返りの時間を設けて、自分や友達の良いところを共有し、クリアシートに随時書き込んだことで、視覚的に分かりやすく意識の高まりにもつながった。

- ④ 団体と話し合いを重ね、スコアオリエンテーリングの範囲を狭めたり、簡易な野外炊事であるポリ袋炊飯を取り入れたりと児童の実態に合わせたプログラムを設定できた。また、キャンドルのつどいや入浴、就寝準備等は団体に進めてもらうようにしたことで、研修支援事業へとつなげていく流れができた。

(4) 今後の課題

- ① 室内での活動が多かったため、自然の中でも体験できるKAPの内容を研究していく。
- ② 研修支援事業として、岡山県内や近隣県に普及できるように、パッケージ化や効果の提示をしていく。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克